

一般社団法人いえしま自然体験協会設立趣意書

地元家島町の人達には、昭和 57 年「母と子の島」の設立時から、設置の趣旨に賛同し、事業運営（海上交通・救急体制及び漁業体験活動の確保並びに食材・人材の提供等々）に積極的に協力をしていただいてまいりました。

「母と子の島」は、開設 25 年を迎えた平成 19 年に兵庫のこども達の海の環境学習の拠点としてリニューアルされ、名称も「いえしま自然体験センター」と変更されました。

記念式典には、坊勢小学校の「緑の少年団」をはじめ「坊勢漁業協同組合」、「坊勢区会」、「家島漁業協同組合」、「真浦区会」、「宮区会」、青年団、婦人会、教育関係者、青少年活動団体関係者、行政関係者等、300 名を超える地元の皆様に参加いただき交流を深めていただきました。

リニューアルオープン後は、同センターが環境省から委託された子どもパークレンジャーの養成事業等、各種人材養成プログラムへの支援、海岸清掃活動、夏季繁忙期における浜辺の監視・安全確保、施設管理に関する地元ボランティアの皆様方と同センターとが一層協力関係を深めてまいりました。

とりわけ平成 19 年に同センターで開催された「第 8 回海辺の環境教育フォーラム 2008in いえしま（播磨灘）」には、全国各地から 100 名の環境教育指導者が参加する中、地元住民 260 名が参加し、漁協婦人部の指導のもとに実施された、公開ワークショップ「郷土の海の幸から海辺の環境教育を考える」では、「きれいな海」と「豊かな海」について活発な意見交換を行い高い評価を得ました。このほか、平成 21 年度からは、海域環境（漁礁）実証実験、子ども海辺の環境リポーターの研究発表にも協力するなど、同センターと地域が車の両輪となって、特色ある海辺の自然体験活動を展開し、全国に向けて発信しています。

兵庫県の計画では、平成 23 年度以降、同センターの管理運営を任せる指定管理者を公募されることなのですが、地元を理解していない、理解できない民間団体等が管理運営することとなった場合は、長年にわたり同センターと地元住民が築きあげた連携の確保、協働が困難となります。

同センターは地域の大切な施設であり、地元住民が自ら創意と工夫を持って積極的に管理運営に関わっていくことこそが、母と子の島開設時からの設置目的である「自然に親しみ、自然を理解し、自然と共に生きる体験の機会を広く提供し、人と自然、人と人のふれあいを深めることに資する」という設置の趣旨の達成に繋がり、明日の社会の担い手として心身ともに健やかな子ども達や、青少年達を地域みんなで育てることになります。

そこで、地元坊勢、家島の「海の自然・地域・人・文化」の繋がりを生かした特色ある地域活性化を図るため、発起人一同、このたび、「一般社団法人いえしま自然体験協会」を設立いたしました。是非とも、地元坊勢、家島の皆様方には「一般社団法人いえしま自然体験協会」の設立の趣旨にご理解とご賛同をいただき、一人でも多くの方々に会員になっていただきますようお願いいたします。

地域の人達が力を合わせて「いえしま自然体験センター」や家島諸島をフィールドとして、海の自然に親しむ事業や、自然体験活動、環境学習事業等々を展開し、日本一元気な漁協、瀬戸内海国立公園に位置する里海として、地域の魅力を広く県内外に発信してまいりたいと考えています。

なお、平成 22 年 10 月 15 日には、鉾方会長・上村理事・池田理事が任意団体「いえしま自然体験協会」代表として、兵庫県知事に、平成 24 年 4 月以降は地元坊勢・家島の住民が設立した「一般社団法人いえしま自然体験協会」に、「いえしま自然体験センター（旧母と子の島）」の指定管理者として管理運営をさせていただきたい旨、既に要望しております。「一般社団法人いえしま自然体験協会」といたしまして、今後とも鋭意努力をしてまいりますので、皆様の熱いご支援をいただきますよう心からお願い申し上げます。

平成23年1月6日

(発起人)

一般社団法人いえしま自然体験協会

会長（代表理事）	鋤方 志郎（元家島町長・母と子の島初代島長）
理 事	上村 広一（坊勢漁業協同組合組合長）
理 事	池田 明治（坊勢区会区長）
理 事	畑野 長利（真浦区会区長）
理 事	高島 軍治（宮区会区長）
理 事	速水順一郎（兵庫県青少年団体連絡協議会会長）
理 事	清水 勲夫（財団法人野外活動協会専務理事）
理 事	栗原 高志（公益財団法人兵庫県青少年本部理事長）
監 事	森 光則（坊勢漁業協同組合参事）
監 事	古屋 茂樹（財団法人兵庫県青少年本部監事）